

足元のインド株式市場の動向と今後の見通し

<ポイント>

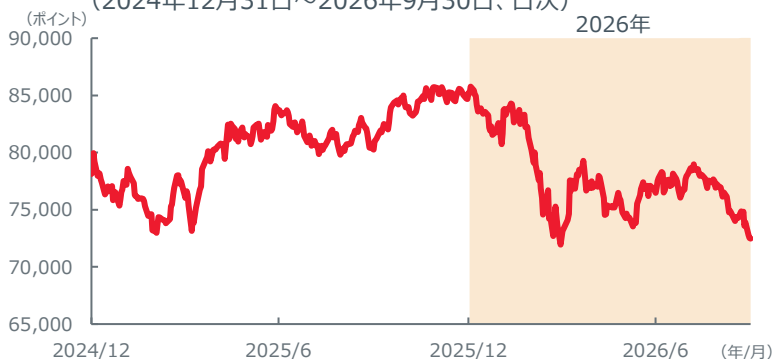
- インド株式市場：中東情勢悪化などを背景に急落後、上値の重い展開
- ルピーの動向：対米ドル、対円ともに軟調に推移
- 今後の見通し：短期的なリスク回避の可能性は残るものの、中長期的な成長ストーリーは不変

インド株式市場は中東情勢悪化などを背景に急落後、上値の重い展開

- 2026年のインド株式市場は、2月から3月にかけて、AIの進化が既存のソフトウェア企業の事業モデルを脅かすとの「AI脅威論」を背景に、米国のソフトウェア関連株が大幅安となり、インドのITセクターも連れ安となったことが相場の重しとなりました。また、中東情勢悪化による原油価格の急騰を受け、インフレ圧力や貿易収支・経常収支の悪化が懸念されたことに加え、外国投資家による売りも重なり、インド株式市場は大きく下落しました。
- その後は、原油価格を巡る先行き不透明感やルピー安などが重しとなる場面もあったものの、原油価格の下落やインド準備銀行（RBI、中央銀行）による外国資金の流入促進策などが支援材料となり、変動を伴いながらもインド株式市場は持ち直す動きがみられました。
- しかしながら、8月以降は、原油価格の再上昇や世界的な長期金利の上昇に加え、インド株式市場ではAI関連株の投資機会が限定的であることなどが再び重しとなり、株式市場は軟調に推移しました（図表1、2）。
- 業種別の騰落率（年初来）では、通信サービスやヘルスケア、資本財・サービスなどが市場をけん引する一方で、情報技術や生活必需品などが相場の重しとなりました（図表3）。

（図表1）インド株式市場の推移

（2024年12月31日～2026年9月30日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
インド株式はSENSEX指数、プライス・リターン、現地通貨ベース。

（図表2）ブレント原油の推移

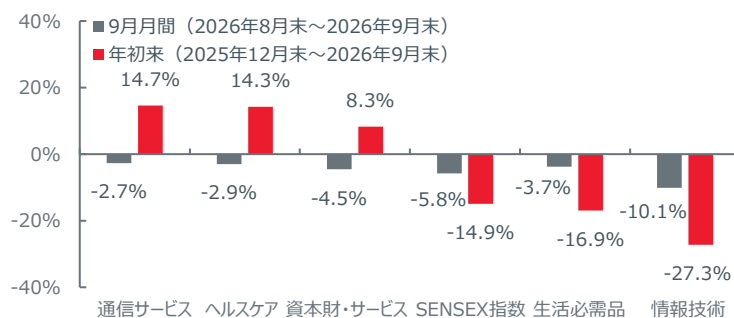
（2024年12月31日～2026年9月30日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

（図表3）2026年 主なインド・セクター指数の騰落率

（2025年12月31日～2026年9月30日、9月月間および年初来）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
SENSEX指数およびBSEの各セクター指数を使用、プライス・リターン、現地通貨ベース。

○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人資産運用業協会

261006(04)

(1/3)

ルピーは対米ドル、対円ともに軟調な推移

- 2026年のインドルピーは、中東情勢の悪化を受けた原油価格の上昇や外国投資家による資金流出などを背景に、年初来で対米ドル、対円ともに総じて軟調に推移しました。
- 足元でも対米ドルでは、過去最安値圏での取引が続いています（図表4）。

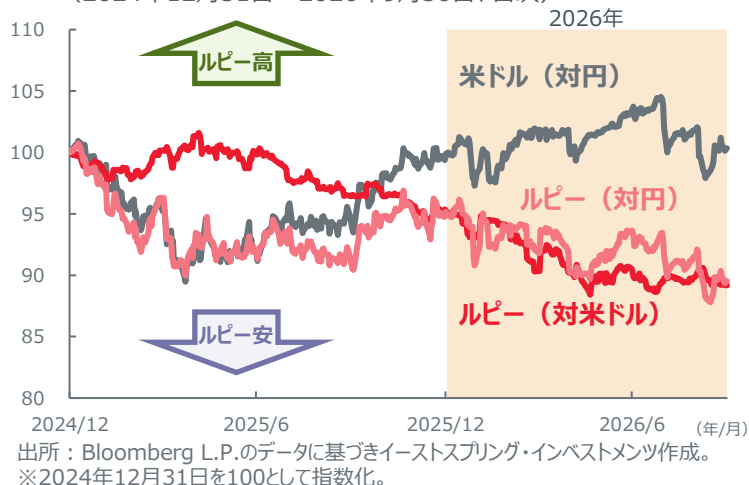
国内投資家がインド株式市場を下支え

- インド株式市場の売買動向では、外国投資家の資金流入は月によってばらつきがあり、今年3月以降は大幅な売り越しとなる月が目立ちました。ただし、6月半ばの米国とイランの停戦合意に向けた動きを背景に、外国投資家は7月および8月に買い越しており、変化の兆しも見られます。
- 一方で、国内投資家は比較的堅調に買い越しを継続しています。中間・高所得者層の増加に伴い、SIP（インドの投信積立制度）を活用した積立投資が拡大しています。個人投資家からの資金流入拡大を背景に、国内資金がインド株式市場の重要な支えとなっており、外国投資家の売り越し局面でも需給の安定化に寄与しています（図表5）。

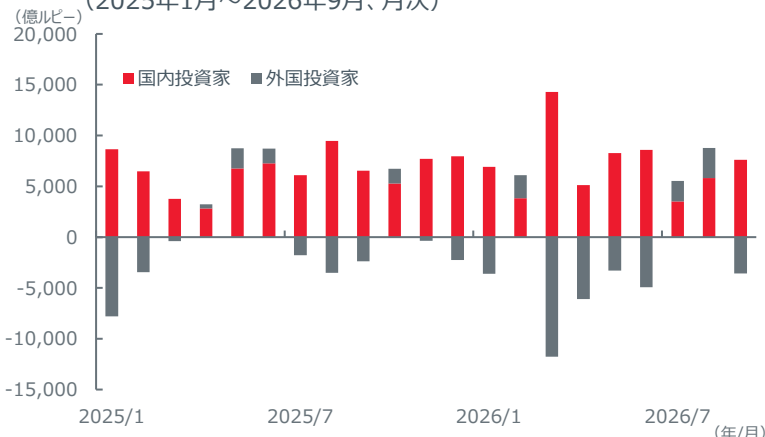
今後の見通し

- 世界経済の先行きに対する不確実性が高まる中、インド経済は、主にインフラ投資や個人消費などの内需にけん引され、2026年度も堅調に推移しています。
- インド政府によれば、2026年4-6月期の実質GDP（国内総生産）成長率は前年同期比+7.8%となり、成長が加速しました。外部機関も2026年度の実質GDP成長率見通しを概ね7%前後に上方修正するなど成長率が加速する見通しを示しています（図表6）。

（図表4）ルピー（対米ドル、対円）の推移
（2024年12月31日～2026年9月30日、日次）



（図表5）インド株式市場への資金純流出入の推移
（2025年1月～2026年9月、月次）



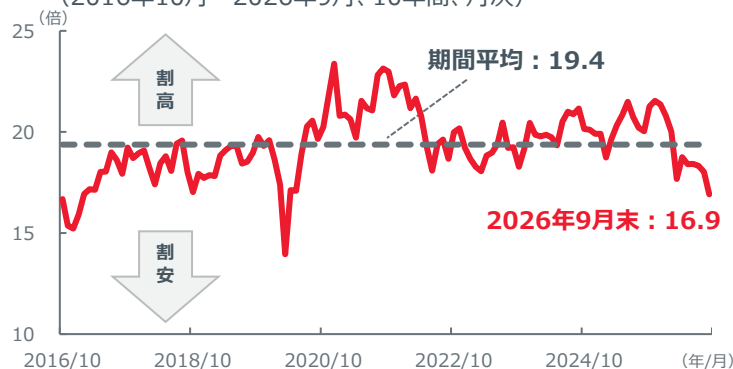
（図表6）外部機関などによるインド実質GDP成長率見通し（2026年度）

外部機関名	前回発表	今回発表
経済協力開発機構（OECD）	6.3%	7.1%
アジア開発銀行（ADB）	6.6%	7.0%
S&P	6.6%	7.0%
Moody's	6.0%	7.0%
フィッチ	6.4%	6.9%

出所：OECD Interim Economic Outlook（2026年9月）、ADB Asian Development Outlook（2026年9月）、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。※発表時点は各外部機関の公表時点に準じる。
※2026年度は2026年4月から2027年3月まで。

- 引き続き、中東情勢の緊迫化に伴う原油高など外部環境への懸念は残るものの、株価下落により割高感 は解消されつつあります（図表7）。
- 今後、エネルギー価格の安定や投資環境の改善が進めば外国投資家からの資金流入も期待されます。
- 地政学リスクなどを背景に、短期的にリスク回避の動きが強まる可能性はあるものの、人口増加や都市化、消費拡大といった構造的要因に支えられた、インドの中長期的な成長ストーリーに変わりはないと考えています。

（図表7）SENSEX指数の予想株価収益率の推移
（2016年10月～2026年9月、10年間、月次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※インド株式：SENSEX指数。予想株価収益率は1年先の企業利益予想に基づく。

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。